

【岩手県】

現在の景気：足踏み。

3か月程度の見通し：足踏み状態が続くとみられている。

個人消費：一進一退。2月の大型小売店販売（店調前）は前年比1.9%減少。百貨店販売（店調前）は前年比15.5%減少。店調後は、降雪の影響から客足が鈍く、全体では前年比2.8%減と5か月ぶりに減少。スーパー販売（店調前）は、主力の飲食料品が堅調となるなど、全体では前年比2.9%増と2か月連続で増加。3月の乗用車販売（軽含む）は前年比171.2%増と7か月連続で増加。新型車の投入やエコカー補助金の復活から、普通乗用車が前年比211.5%増加、小型乗用車が147.3%増加、軽乗用車が171.5%増と6か月連続で増加。

住宅建築：増加。2月の住宅着工戸数は、貸家が前年比横這いとなったものの、主力の持家が53.8%増加、分譲住宅が50.0%増加し、全体では前年比27.0%増と2か月連続で増加。

設備投資：増加。2月の建築着工床面積（非居住用）は、卸売・小売業、教育・学習支援業が減少したものの、震災復旧・復興に伴い製造業、農林水産業用が増加し、全体では前年比14.0%増と3か月ぶりに増加。

公共工事：増加基調。3月の公共工事請負額は、国が前年比4.6倍増加、県が5.0倍増加、市町村が15.4倍増加し、全体では前年比5.2倍増と6か月連続で増加。震災復旧関連工事を中心に増加。

生産活動：持ち直しの動き。1月の鉱工業生産指数（季調済）は前月比7.3%上昇し90.6と2か月連続で上昇。自動車関連、復興関連の窯業・土石が上昇、主要業種である電子部品、一般機械、食料品が低下。2月の大口電力使用量は前年比6.2%減少。

観光：足許低調。2月の県内主要スキー場の入込客数は前年比15.1%減の25万1,000人。降雪に恵まれゲレンデコンディションは良好であったものの、今年は三連休がなかったことから、大部分のスキー場で振るわず。

雇用情勢：厳しい状況ながら、一部持ち直しの動き。2月の有効求人倍率（季調済）は前月比0.04ポイント上昇し0.79倍と10か月連続上昇。新規求人数（原数値）は、建設業を中心に災害復旧関連の求人が前年比65.2%増加。主な業種では、建設業が前年比164.8%増加、サービス業（製造業の派遣事業所からの求人、警備業（工事現場の誘導員））が139.5%増加、製造業は内陸部の自動車関連や沿岸部の食料品製造の求人増から69.8%増加、卸・小売業は復興需要を反映してスーパーやホームセンターでパートタイマー採用の動きがみられ30.7%増加。新規求人数は改善傾向にあるものの、正社員の有効求人倍率は0.34倍と低水準で推移し、厳しい状況。

（トピックス）

- 岩手経済研究所の「いわて景気ウォッチャー調査」（1月実施、回答数90）によると、3か月前と比較した景気の現状に対する判断指数は、前回（2011年10月）調査比1.6ポイント低下し50.6。景況感の分かれ目とされる50を上回り、景況感の改善が続く。先行き（2～3か月先）に対する判断指数は52.8となり、先行きについても堅調と判断。
- 3月25日、いわて花巻空港発着便（日本航空、フジドリームエアラインズ）のダイヤを改正。一日あたりの往復便数は7便から9便に増便。

< 主要産業の動向 ー岩手県ー >

- **輸送機械**：1月の生産指数（季調済）は前月比 63.5%上昇し 162.5 と3か月ぶりに上昇。完成車は最新小型HV車の受注好調で増産態勢にあり、自動車部品関連も大幅に増産。

- **電子部品・デバイス**：1月の生産指数（季調済）は前月比 9.1%低下し 69.7 と2か月連続で低下。パソコン、デジタル家電など世界的なIT関連需要の低迷から半導体、複合部品ともに生産水準が低下。コンデンサは増産。

- **漁業**：3月8日、三陸沿岸に春の訪れを告げるイサダ漁が前年より3日ほど遅れて、一斉にスタート。前年は解禁直後の震災による壊滅的な被害を受け、県内の水揚量は予定の1万8,000 tを大幅に下回る2,463 t。今漁期の本県漁獲割当量は前年比3,000 t減の1万5,000 t。イサダ漁は例年3月をピークに4月まで続き、漁獲枠に達し次第終了。